

ほくじょう 牧場の

なか ま 仲間たちの くらし

やあ。ほくの ^{なまえ}名前は、ビープビープ。
みんなの ^{あんないやく}案内役を つとめる クラスだよ。
これから、ほくたちが ^{ほくじょう}牧場で ^{くらす}くらす
^{ようす}様子を ^{つた}お伝えするね。

この牧場の ^{ほくじょう}動物たちは ^{どうぶつ}みんな、すごく ^{なかよ}仲良し。
これから ほくたちの ^{ものがたり}物語を ^{はな}話すよ。
さあ、ゆっくり くつろいで、
^{はなし}お話を ^{たの}楽しんでね。



とも
友だちに なるのが、

わら
あざ笑うのが



さくや なや とき
昨夜、納屋に もどった時の ベツィ。

かな め
悲しそうな 目を していたよ。

スターが ベツィに 聞いた。「どうしたの？」

ベツィは、いやに なっちゃうと こぼした。



まき は うし
「牧場に いる め牛たちったら。

わたしのことを からかうのよ。

まいばん なや
毎晩 納屋に もどるなんて、

ばかっているわって。」



「だけど、わたしが なや 納屋に もどるのは、

ちち だ
お乳を 出すためなの。

ほくしょうぬし こども そだ
牧場主の 子供たちが じょうぶに 育つようにね。

わたしに そっくりな 子牛にも、

ちち
お乳を あげるのよ。」





「ベツィが^{なや}納屋に もどらないと、さびしいわ。
^{まいばん}毎晩 いっしょに ^す過ごして、
^{あさ}朝も いっしょに むかえるのは ^{たの}楽しいもの。」



^{まきば}「牧場の ^{うし}め牛たちは、
^{ゆうはん}夕ご飯に オーツを もらえないのよ。
あなたは ごちそうを もらってるなんて、
^{とくいげ}得意気に ^い言いふらしたり してないわよね？」



^{じつ}「実は・・・つい ^{くちばし}口走っちゃったのよ。
こんな ごちそうを もらえるなんて、
わたしは ^{たいせつ}きっと、大切なんだわってね。」





「明日、わたしが いっしょに 行って、
め牛たちに 話してあげるわ。
あなたに いやがらせを しないようにって、
はっきり 分かせてあげる。」



「待つて、それは 助けに ならないわ！
いやがらせの 仕返しに、おどがして 追っばらうために
あなたを 連れて来たって 思われちゃうわ。」



「ほくしょうぬし 牧場主に そうだん 相談しては？
め牛たちに やさしく するようにって 言い聞かせて もらうの。
あなたが もらっているのは オーツじゃ なくて、
こめ 米だっただとが 言って、なだめて もらうのよ。」





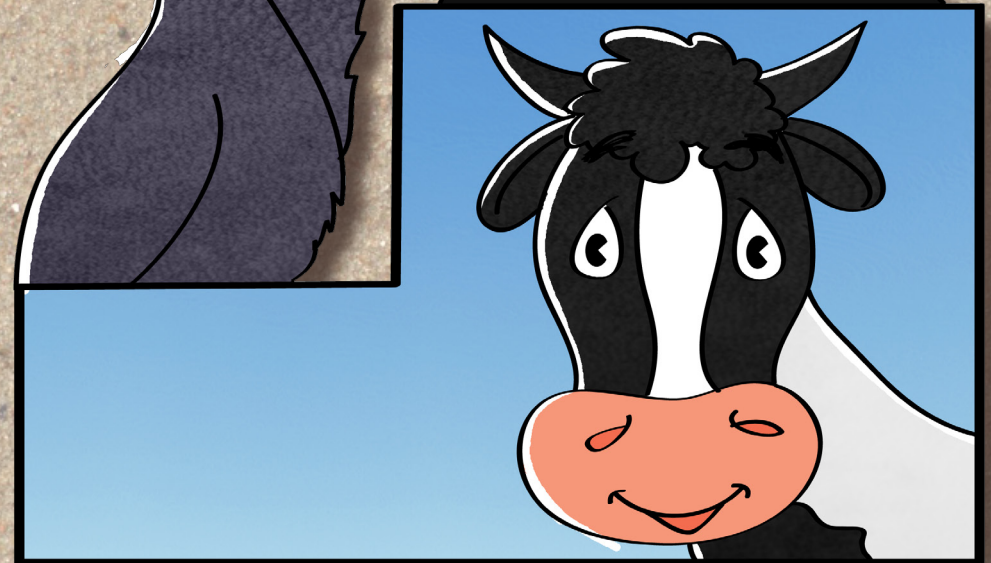
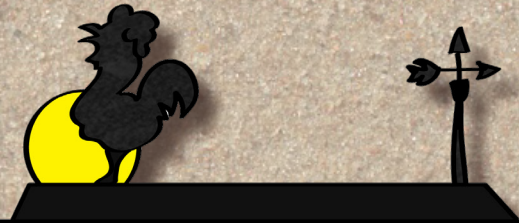
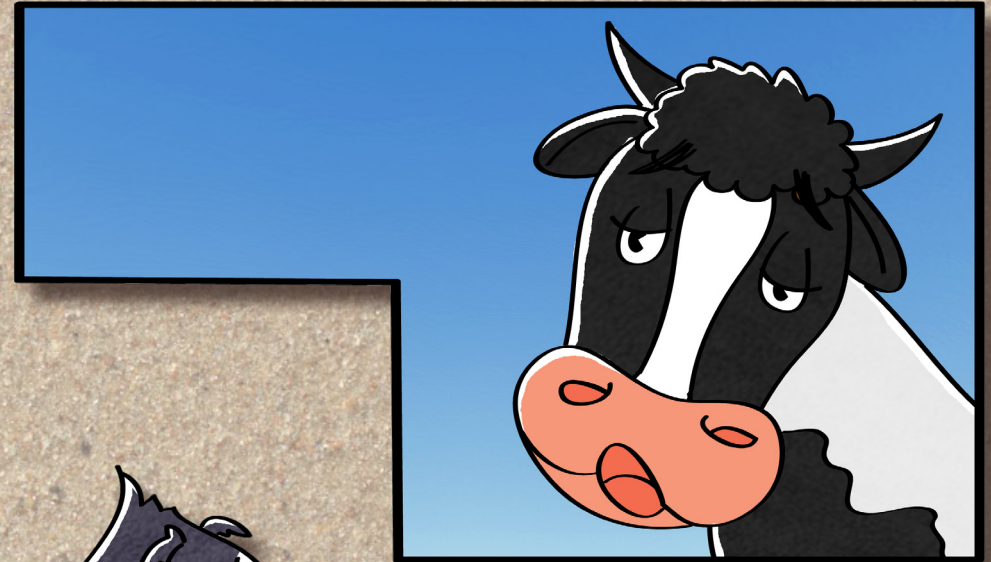
「みんな、^{しんみ}親身に なってくれて、ありがとう。
もう おそいから、ねるわ。
^{なにこと}あしたは 何事も ないと いいんだけど。」



^{よる}夜が ^あ明けると、チャボの ^{おお}おんどりが ^{こえ}大きな 声で ^{あさ}朝を ^つ告げた。
^{あたら}新しい ^{にち}1日の ^{はし}始まりだ。^{たいよう}太陽が のぼってくると、
^{ようす}ぼくは ベツィの ^み様子を ^お見に、まい下りて きた。



「みんな、おはよう！
わたしね、よく ねて、よく ^{かんが}考えてみたの。
やっぱり、め牛たちに ^{うし}あやまるわ。
わたしが ^{はんかん}じまんしたから、反感を ^が買っちゃったのよ。」





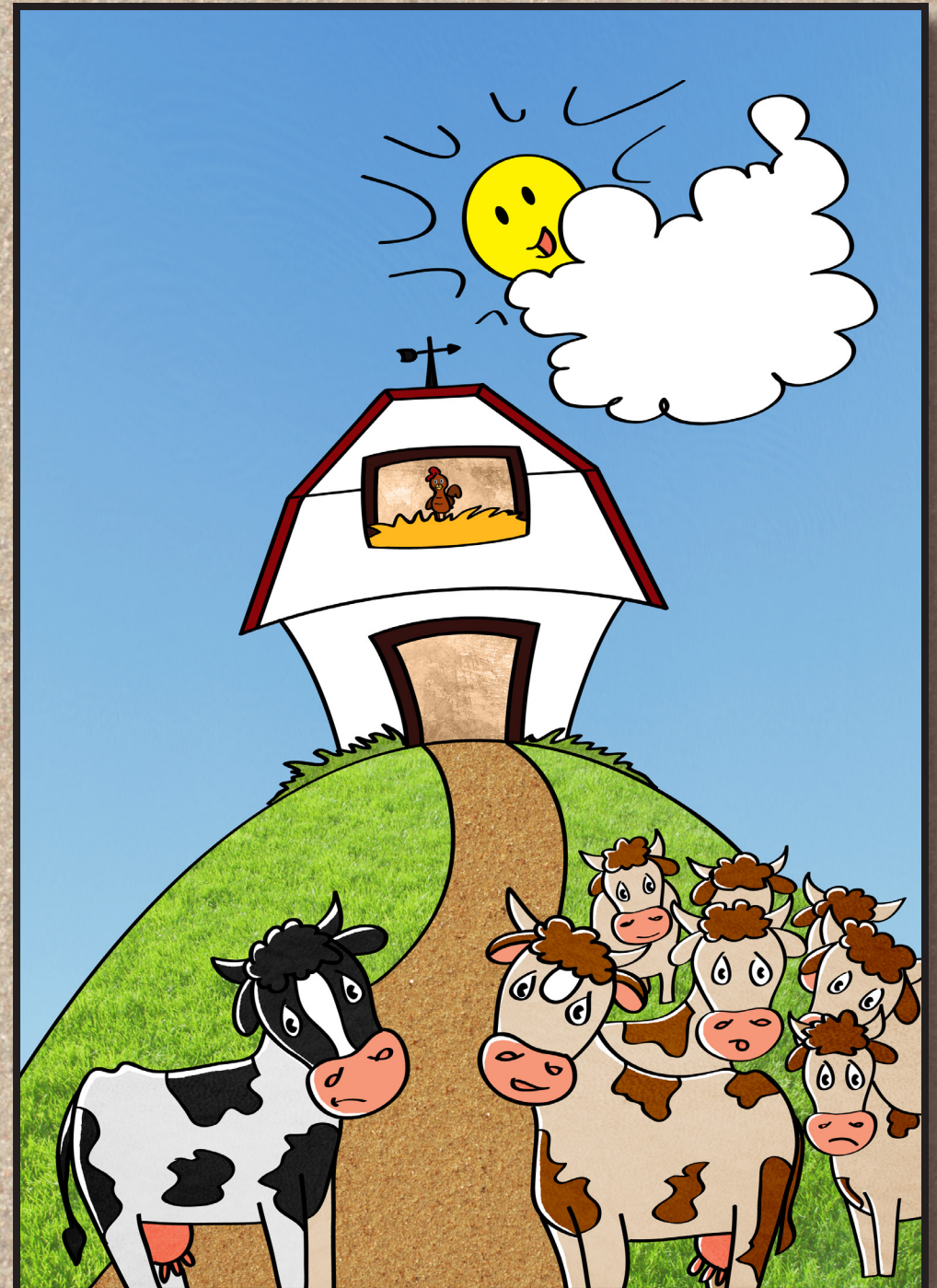
ベツィは、仲間のめ牛たちをさがしに、
ゆうかんに門を出て行った。
たやすいことじゃないとわがっていたので、
助けを求めて祈ったよ。



「牧場に いる みんなに、あやまるわ。
自分の 特権を じまんするなんて、
みんなに いやな 思いを させてしまったわ。」



「わざわざ あやまりに 来てくれて、ありがとう。
わたしたちも、あなたに あやまらないと。
夕べ みんなと 話したんだけど、わたしたちも、
意地悪な ことを 言ってしまって、はずかしいわ。」

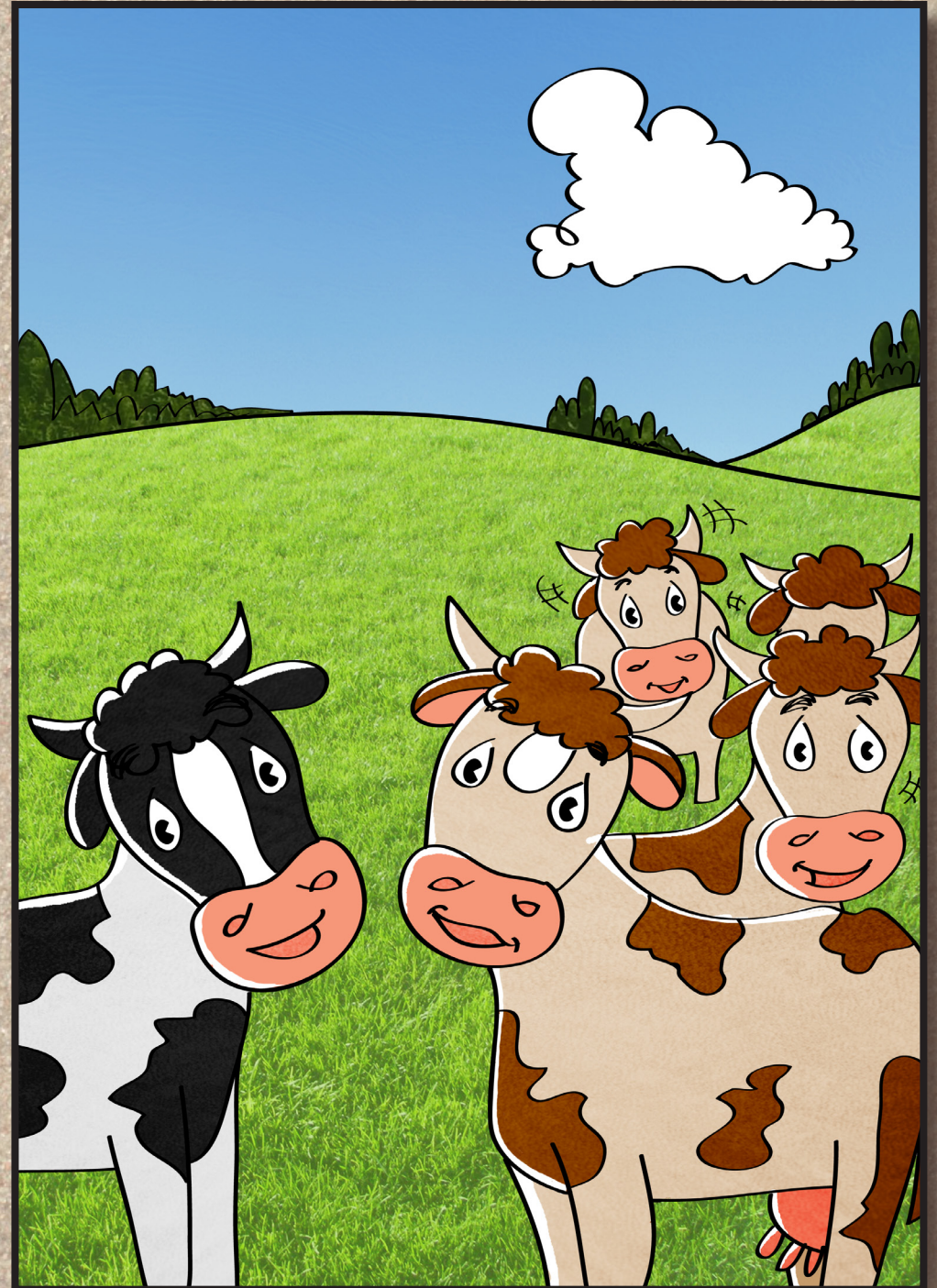




「あなたに ^{たいへん} とっても、大変よね。
^{まいばん} 毎晩 ^{な や} 納屋まで もどらなくちゃ いけないのは。
^{ちち} お乳が ^は 張っていたら、さぞかし ^{おも} 重いでしょ。
とっても ^{ほね} 骨の ^お 折れる ことだわ。」

^{ほくじょうぬし} 牧場主の ^{かぞく} 家族も、^{えいよう} 栄養 ^{ぎゅうにゅう} たっぴりの ^{ひつよう} 牛乳が 必要だから、
^{よぶん} あなたに 余分な ^{えいよう} 栄養の ある ものを くれるんだわ。
あなたの ^{けんこう} 健康を ^き 気づかっているのよね。」

「わたしたち、あなたが ^{なかま} 仲間で うれしいわ。
いつでも ^{まきば} 牧場に ^{あそ} 遊びに ^き 来てね。
いっしょに ^{たの} 楽しみましょう。
わたしたちは みんな、^{なかま} 仲間。」





うし まき は
め牛たちは、牧場で また いっしょ。

ど
1度は けんがに なったけど、
いま いっしょに たの 楽しんでいる。

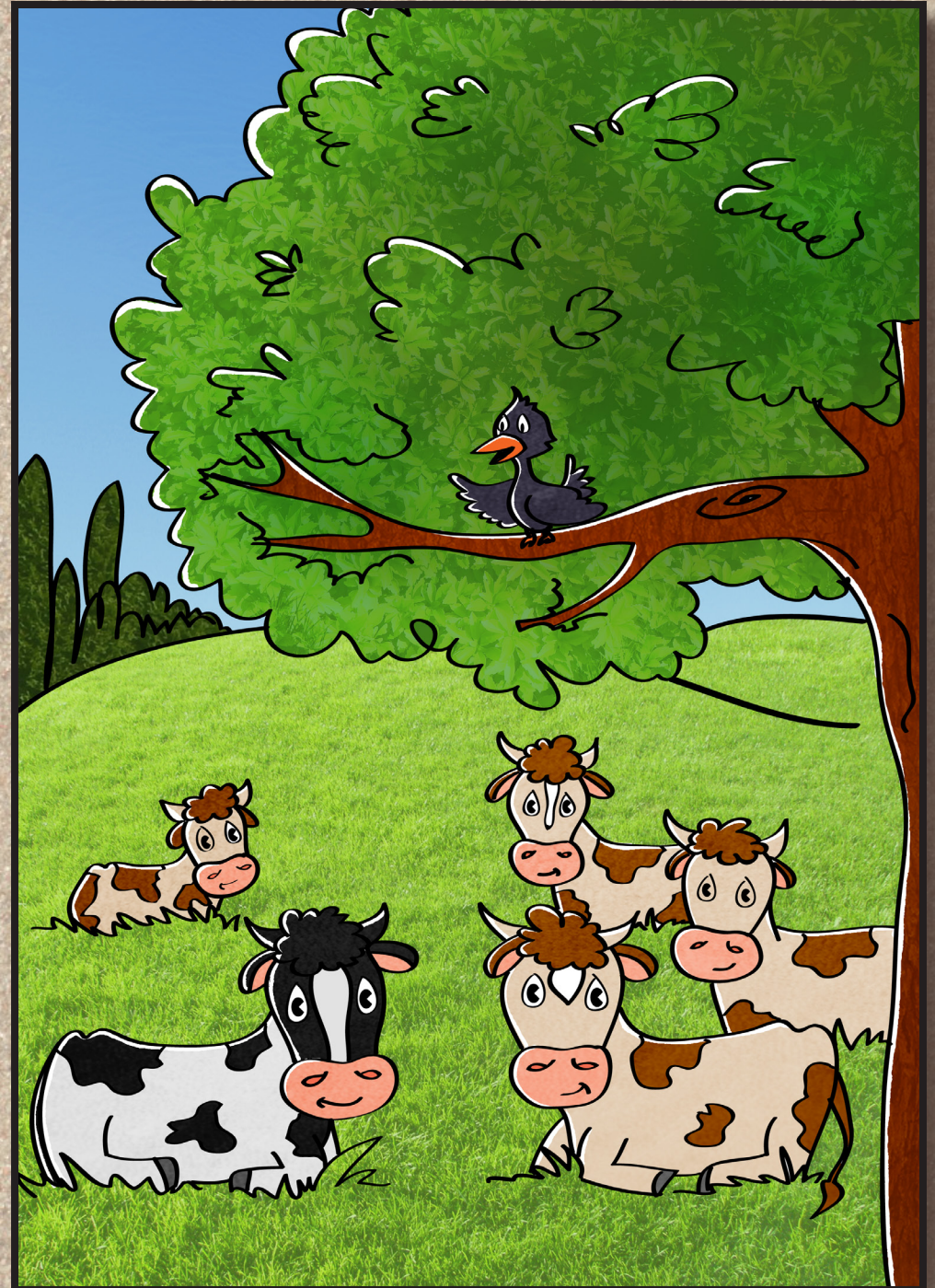
ちゃんと なかなお 仲直りしたからね。

はなし かんが
この お話について 考えていたんだけど、

あいて わら
相手を あざ笑ったり するよりは、

なが よ
仲良して いるほうが、

しあわ き ぶん
幸せな 気分だよ。



文：クリスティ・S・リンチ 絵とデザイン：ステファン・ミーラー

出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2016年、ファミリーインターナショナル

“The Life of Friends”-Japanese

関連の読み物はこちら ⇒ 牧場の仲間たちのくらし、友情、詩、子供のための物語